

Bluetooth調査機器を用いた駅前広場における人流調査

復建調査設計株式会社

福永晃彦

山下大輔

福嶋浩人

山本朋広

山根啓典

～JR松山駅周辺を対象に～

1 背景と目的

従来





人手観測

近年



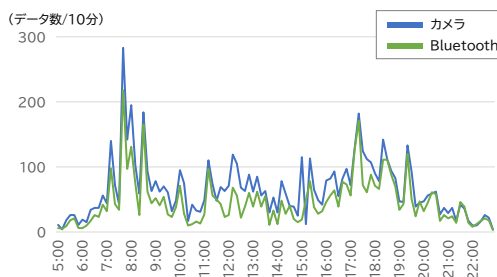
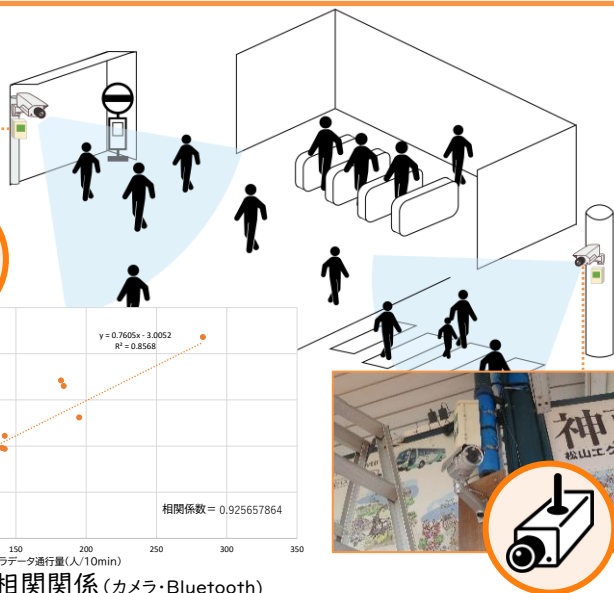
センシング観測

センサーの種類	特徴	課題
 Bluetooth	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の電波をすべて収集 ・個人情報を取得しない 	<ul style="list-style-type: none"> ・実数を取得できない ・最長20分でアドレスが切り替わる
 カメラ	<ul style="list-style-type: none"> ・実数の把握が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置箇所に制約がある ・個人情報取得の観点による制約 ・画角外は把握不可

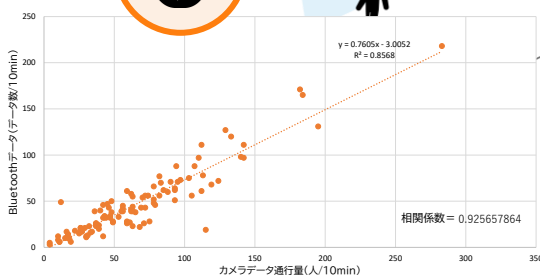
2 JR松山駅周辺における調査と分析

調査概要

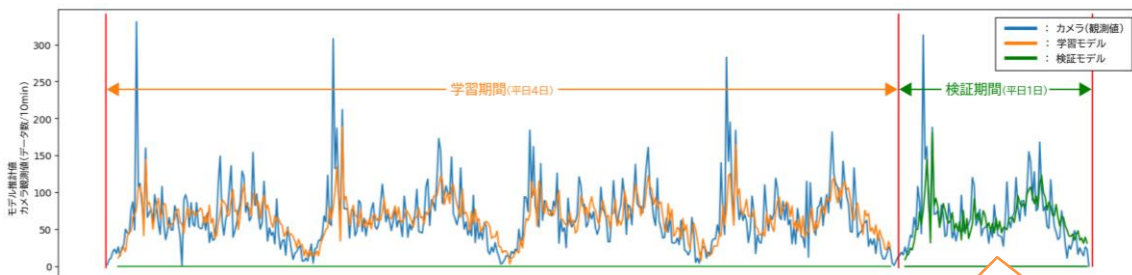
- ▶ 時期: R4年9月 (1週間)
- ▶ 地域: JR松山駅周辺 (愛媛県松山市)
- ▶ 機器: カメラ5台
Bluetooth 15個



▲取得データの時系列推移(カメラ・Bluetooth)



▲取得データの相関関係(カメラ・Bluetooth)



▲機械学習による学習モデルの推計結果(LSTM)

精度低
学習が必要

3 今後の活用方策として



ICカード未導入(バス・電車など)での活用

賑わいの計測での活用